

県中体連柔道競技で好成績。東北大会、全国大会出場！

7月17日・18日に開催された県中体連柔道競技に出場した車力中3年佐藤心美さん、2年葛西萌恵さん、2年横山琉愛さん、2年坂本天海さんは団体で見事優勝、個人でも優勝・準優勝を飾りました。個人戦に出場した木造中2年豊嶋大翔くんも準優勝を飾る好成績を納めました。この日、選手の皆さんが優勝・準優勝の喜びと東北大会・全国大会出場の報告に訪れました。

主将の佐藤さんは「自身にとって中学校生活最後の大きい大会となるので、後悔しないように最後まで諦めずに精一杯頑張りたい」と意気込みを語りました。

倉光市長は「東北大会・全国大会では今までやってきたことを全部出し切って楽しんでください」と激励し、現在建設中の(仮称)市総合体育館で2026年に開催される第80回国民スポーツ大会の柔道競技には「市代表として出場してほしい」と大きな期待を寄せました。

※8月4日・5日、仙台市で開催された東北大会では、女子団体は見事第3位に輝いたほか、個人では横山さんが優勝の快挙。



左から、爽やかな笑顔で報告に訪れた佐藤さん、坂本さん、葛西さん、横山さん、豊嶋くん

手間暇かけて育てたメロンを盗難から守れ



7/27 木造菰槌地区

佐藤哲郎さんの畑を見回り不審者を見かけたらすぐに通報するよう呼びかける菊池署長

市特産のメロンやスイカなどを盗難被害から守ろうと、毎年収穫時期に合わせて、つがる警察署や市防犯協会などが「メロンロードパトロール隊」を結成し、盗難防止に努めています。

この日、市役所前で出動式が行われ、倉光市長が「生産者が手塩にかけて育ててきたメロンやスイカが盗難被害に遭うと、収入源が断たれるだけでなく生産意欲の低下も招く。収穫時期が無事に終わるまで、一丸となって盗難防止に全力を挙げていただきたい」と激励しました。つがる警察署の菊池智和署長は「生産者が収穫に専念してもらえるよう、体制を強化して夜間パトロールを行うなど、万全を期したい」と話しました。

中学生が英語のコミュニケーション能力を高める

国際化に対応して夢を実現する人材を育成しようと「Enjoy! English Day at つがる地球村2021」が行われました。

新型コロナウイルスの影響により去年は中止となったため2年ぶりに実施。市内の中学生20人が参加し、西北管内の英語指導助手(ALT)と国際交流員(CIR)8人が講師になって、日本語は使わず全て英語で活動しました。

生徒たちは、日本人にとって難しいとされる「R」と「L」の英語の発音の違いをクイズ形式で楽しく学ぶなど英語への理解を深めていました。

活動の最後には生徒一人一人が、もちろん英語で「前よりも英語が好きになった」「英語をもっと勉強して、うまく話せるようになりたい」などと感想を発表しました。活動を終えた生徒たちの輝く笑顔からは英語に自信がついた様子がうかがえました。



7/29 つがる地球村

ALTからアドバイスを受ける参加者

市民に親しまれ市立図書館が開館5周年

7/29 市立図書館



図書館が大好きな娘と毎週足を運んでいると話す藤田亜弓さん(中左)、車力村読書サークル代表北澤由美子さん(中右)

平成28年7月29日に開館した市立図書館が5周年を迎えました。蔵書数も8万冊から10万冊に増え、来館者数は今年7月末で119万4千人に到達しました。

イオンモールつがる柏内に設置した全国的にも非常に珍しい図書館は、買い物ついでに立ち寄れ、ゆったりと読書を楽しむためのスペースを確保し、地域に役立つ情報を提供するなど、サービスの向上に努めています。

この日、記念セレモニーが開催され図書館川柳最優秀賞とボランティア活動の表彰も行われました。川柳では藤田優哉さんの「パパこっち 図書館アテンド 娘3歳」が最優秀賞を受賞。読み聞かせなどの読書活動を行っている市内の5団体には感謝状が贈呈されました。

これからも地域における学びの拠点として、多くの方から親しまれる図書館を目指していきます。

防災備蓄倉庫・ヘリポートの建設工事がはじまる

市では、現在建設中の(仮称)市総合体育館の隣に、防災備蓄倉庫とヘリポートの整備を進めています。この防災備蓄倉庫は、平成30年から検討を重ね、防衛省の民生安定施設設置助成事業の補助金を活用して建設し、令和5年4月から供用を開始します。事業費は8億2千5百万円、建物の総床面積は1,228平方メートル。5千人分の水・カップ麺などの食料品や日用品を3日分備蓄することができます。

この日、建設地において安全祈願祭が執り行われ、倉光市長は「防災機能を強化し、市民が安心して生活できるようにしたい」と話しました。

7/30 防災備蓄倉庫建設地(木造若緑)



防災の拠点となる備蓄倉庫とヘリポートの工事の安全を願い、くわを入れる倉光市長

プランター栽培を通じて家庭での食育を推進

7/31 市役所前



大きく育てほしいと丁寧に水をまく児童たち

市食育推進応援隊(嶋野和子会長)では、コロナ禍において家族で過ごす機会が増えていることから、自宅でも食育に取り組んでもらいたいと、ハツカダイコンとミックスレタスのプランター栽培の方法を親子で学ぶ教室を開きました。

西北地域県民局農業普及振興室の佐藤祐子さんが講師を務め、参加した5組13人の親子は、培養土の入れ方や種のまき方といった基本のほか、虫よけネットを活用してアオムシがつくのを防ぐこと、レタスは暑さに弱いので涼しい場所にプランターを設置することなど、栽培のコツを教わりました。

友達に誘われて参加した向陽小2年の田村英さんは「水やりをがんばりたい。大きく育ったら家族みんなで食べたい」と収穫を楽しみにしていました。